

は し が き

2008年9月に、事故米穀の不正規流通という、国民の食の安全に対する信頼を揺るがす事件が九州で発生しました。これを受けて農林水産省では、この事件の原因究明と再発防止策等を講じるとともに、真に国民の視点に立った農林水産行政を展開できるよう、農林水産省改革を進めているところです。

九州農政局は、この事件の発生地であることを深く受け止め、食の安全確保と消費者の信頼回復を目指して、必要な対策を推進するとともに、農政局の業務の改革に全力で取り組んで参ります。

2008年は、世界の食料需給のひっ迫による農産物の国際価格の高騰が国内の食料品価格の上昇を招くなど国民生活に大きな影響を及ぼしました。また、2008年秋の世界金融の危機に端を発した世界同時不況の状況のもとで、我が国の経済や雇用情勢も急速に悪化しました。

世界の食料事情が大きく変化し、経済が激変する中、国内農業に対する関心と期待は高まっていますが、担い手の高齢化や、耕作放棄地の増加など我が国農業の基盤はぜい弱であり、肥飼料の価格上昇など、その経営環境は厳しさを増しています。

我が国農業・農村に対する国民の関心と期待に応え、食料の安定供給と食への信頼確保を図り、地域の活性化を実現していくためには、我が国の重要な食料供給基地である九州の農業の発展が不可欠です。

九州では、土地利用型農業に加え、施設園芸や果樹、畜産など付加価値が高く多様な農業が営まれています。また、九州は他地域に比べて食品製造業の比率が高く、「食」に関する企業の関心が高まっており、企業の農業参入や農商工連携などの動きが見られます。九州農業の活性化のために、こうした農業に関心を持つ多様な分野の連携による、九州の特色を活かした新たな価値の創出が期待されています。

このような最近の動きをふまえ、本「九州食料・農業・農村情勢報告」では、社会情勢から重要性を増している事項等に関する管内の取組をトピックスとして巻頭で取り上げ、また、「九州の食・農を核としたネットワークの挑戦」と題し、多様な分野や主体の連携など、食と農を核としたネットワークの取組を、注目すべき動きとしてとりまとめました。最後に、地域の農業生産、農業経営、農村の動向をデータを交えつつ、とりまとめております。

本報告書が、九州地域の食料・農業・農村の現状と課題について、御理解いただく一助となり、また、この地域の食・農・地域の魅力を知っていただく材料となれば幸いです。

平成21年6月

九州農政局長 宮本 敏久